

令和3年10月15日

令和3年度第2回岸和田市産業活性化推進委員会 会議録

日 時 令和3年10月15日（金） 15：00～17：00

場 所 岸和田市役所 新館4階 第1委員会室

出席者 （委員）

石田信博委員長 山中委員 松下委員 南委員 音掬委員 中井委員
永谷委員 岸田委員 小南委員 佃委員

（欠席）

藤田副委員長 石田茂委員 谷口委員

（事務局）

前田魅力創造部長 上東産業政策課長 田中商工振興担当長 公文企業
経営支援担当主幹 高橋観光振興担当長 栗本農林水産振興担当主幹
中島港湾振興担当長 岸田労働政策担当主幹

1 開会

（事務局）ただいまから令和3年度第2回岸和田市産業活性化推進委員会を開催します。何かとお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。司会進行を務めさせていただく岸和田市魅力創造部産業政策課の上東です。開会に先立ち、魅力創造部長の前田よりご挨拶を申し上げます。

（事務局）本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。本日の議題は盛りだくさんで、新戦略プランの評価や通常の議事進行に加え、新ビジョンや新プランの骨子案につきましても議論いただくことということで、楽しみにしております。資料6はたたき台でございますが、今後の岸和田市の産業振興の方向性や目標を反映できるよう建設的なご意見を頂戴できればと思います。議題は盛りだくさんですが、最後までよろしくお願ひします。

（事務局）それでは本日まで出席の委員の皆様のご紹介をいたします。《委員紹介》次に事務局を紹介させていただきます。《事務局紹介》続きまして本日の委

員の出席状況を申し上げます。本日は谷口委員、藤田副委員長、石田茂委員は欠席です。本日は13名の委員のうち10名が出席のため、岸和田市産業活性化推進委員会規則第5条第2項の規定に基づいて、過半数のご出席をいただき本委員会は成立していることを報告させていただきます。本日はこの会議は公開となっており、2名の傍聴の方がいらっしゃいます。引き続き、配布資料の確認をさせていただきます。《資料確認》会議にあたってお願いがございます。携帯電話の電源はオフにするかマナーモードに設定してください。次にご発言の際にはマイクを使っていただくようお願いいたします。最後に前回の委員会は書面開催でしたので、そこで議決のあった3点をご報告します。1点目は正副委員長の選任についてです。委員長に石田信博委員、副委員長に藤田委員が就任いただくことに同意いただいています。2点目は産業振興ビジョンと新戦略プランの評価をいただくにあたり、3つのワーキンググループに分かれて作業をすすめることについて提案をし、同意をいただいています。3点目は新ビジョンと新プランの改定の進め方について同意をいただいています。それでは議事に入っていきますが、今後の進行については委員会規定に基づいて石田委員長にお願いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

2 議事

(1) 岸和田市産業新戦略プラン【改定版】の評価について

(委員長) よろしく申し上げます。本日は先ほどご紹介のあったように議題がたくさんあり、限られた時間で議論しなければなりませんので、会議の円滑な進行についてご協力をお願いします。それでは次第に沿って進めます。(1)ですが、すでに3つのワーキンググループ会議が開催され、評価をいただいています。その内容を含め、昨年度の取り組み状況を事務局から説明いただきます。その後内容について委員の皆様からご意見をいただいて議事を進めていきたいと考えております。量がたくさんありますので、12ある基本方針を4つずつに分けて内容を確認する形にさせていただきます。まず基本方針1から基本方針4までにつきまして事務局の説明をお願いします。

(事務局) 《概要、基本方針1～4について説明》

(委員長) 取り組み概要と基本方針1～4について説明をいただきました。この内容につきまして、ご意見がございましたらご自由にご発言ください。

(委員) 3-1の企業立地促進法に基づく基本計画の推進に関してです。地域を牽引する企業という言葉がありますが、これはどのようにあたりをつけていくかが今後大事です。例えば国で言うとグローバルストックという言い方を経済産業省はしているほか、国の制度で言うと中小企業等経営強化法に基づく経営革新計画の承認とか、大阪府で言うと大阪ものづくり優良企業賞とか、そういう認定や承認の制度と絡めて地域を牽引していくとするのか、ある程度基礎自治体の方で何らかの付き合いが強いとかそういった内容とするのかを議論いただいたらよいかと思いました。なぜかという、明確にある程度やっておくと、今後施策展開や施策紹介に繋げて、企業支援や産業支援に結びつけることができるためです。これはものづくりだけでなくいろんな業種でできると思います。制度の検討などと絡めてされるとよいと思います。

(事務局) ありがとうございます。とても参考になりました。今年度に関しては地域未来牽引企業が岸和田市内に4企業ありましたのでそちらへはジェグテックという、中小企業を支援する機関（独立行政法人 中小企業基盤整備機構が運営するビジネスマッチングサイト）を紹介させていただきました。地域を牽引する企業をどういう形でどういう指標をもって、というのは興味深く聞かせていただきましたので今後の参考にさせていただきます。

(委員長) これは文言を修正してほしいというご意見ではないですね。他のご意見はありますか。ないようですので、委員のご意見を参考にして、ワーキングでの評価を産業活性化委員会の評価ととらえたいと思います。ご意見がありましたら後程もう一度お伺いします。次に基本方針5から基本方針8につきまして説明をお願いします。

(事務局) 《基本方針5～8の説明》

(委員) まず4-3のチャレンジショップの支援制度の検討と、ありがたいことに引き続き書いていただいています。ただコロナ禍、また今後コロナが収まったとしてもチャレンジショップの中にどういう業態がふさわしいのか各商店街が一緒になり考えていかなければならない。単にチャレンジショップというお題目だけでは集まらないというのが現実だと思っています。進めるのはありがたいですが、そういう壁も乗り越えなければならぬと感じております。あと岸和田ブランドも、昨年GoTo商店街というイベントを商店街連合会で打

ち出した時に、岸和田ブランドというくくりで景品を皆様方にお渡ししました。私もその時に初めて何が岸和田ブランドか、勉強させていただいた次第です。おそらく岸和田市民の皆さんも興味を持っていないと思います。それを、いかに興味を持たせるか、まずは周知というより興味を持たせるようにしていただきたいです。昨年の経験上お願いしたいと思っています。あとは、商店街の活性化の話ばかりで申し訳ないのですが、5－2で商店街の活性化を引き続き支援する、この「支援する」という表現もアバウトで一番差しさわりのないと思うのですが、市、商店街、組合、地主、家主すべてが一体にならないとなかなか厳しい、これが現実です。この壁を痛感しているところですのでその辺もよくご理解をいただきたいと思っております。どんチャカフェスタの開催方法を検討といいますが、これも今後いろんな形で時代も変わり、IT、AIもどんどん登場している時代です。かといって我々商店街は高齢者のお客様も大事にしないといけない場所ですので、紙媒体とデジタルとどのようにミックスするのか、その辺は我々も悩んでいるところです。その辺を行政の皆様にもご教授願いたいところです。あと、5－3観光推進については逆に質問をしたいのですが、10/22から映画G. I. ジョーが封切で、岸和田のお城のロケをしてやっておりますが、山間部にロケ地はないのでしょうか。朝10時に円広志さんらが出ている番組で日帰り旅行として、兵庫県神戸河町でロケをしているのも面白かったので、そういった山間部のロケ地が岸和田にないかなと思いました。とりとめないですが、そういったところを取り込めれば岸和田の発展にも繋がるかと思いました。以上です。

(委員長) 最後のご質問についてどうでしょうか。

(事務局) 山手のご紹介となると牛滝の地域に大威徳寺があり、紅葉の時期に見事な滝があり、そこでの撮影は実績としてあります。

(委員) それは時代劇ですか。

(事務局) 夜のNHKドラマで撮影いただいた実績がございます。

(事務局) 先ほどの岸和田ブランドや商店街チャレンジショップにつきましては、商店街と一緒に取り組みを考えてまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(委 員) 商店街の活性化は消費者にとってもすごく大事なことで、靴下専門のところがあつたなあとか、服地のものが今は無いななど、ぜひ続けていただきたいと思っています。もっと商店街に行けるようなところ、例えば空き店舗の中に1年チャレンジしながらみんなが使えるようなもの、例えば厨房を作って自分の創作料理を出す、そこから自分がやりたいところに行く、チャレンジができるような若い人たちはお店をいきなりは持てないしノウハウがわからないですが、だいたいこれならいけると感じられるような新たなものに挑戦していただきたいです。ご商売の方だけでなく、消費者としても商店街がさびれているのは心配です。一緒にできることがあればさせていただきたいです。

(委 員) ありがとうございます。私は市長ではありませんが、商店街のために頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。

(委員長) 他にございますか。

(委 員) 今までの評価で現状把握や情報収集、企業ニーズをあちこちで言っていますが、ずっと前からこういうことが出てきています。総合的に考えて、データを集めて集約して一元管理し、分析して施策に活用していく仕組みが現状どうなっているのかが気になります。効率化、IT化でますますスピードアップする世の中に応えるために、ぜひこの辺が何とかならないかと思っています。企業ニーズに合った施策をしていくためにもこの辺はどんどんデータを活用して合理的な仕組みが必要だと思います。

(事務局) ご意見をありがとうございます。まだ、組織的にきっちり集めてというところまで統一はできておらず、個人個人で企業訪問やお話をする中で、新しい提案や施策に関する着想を得たりしております。一元化には至っていないところですので、そのあたりを含めて今後整理できればと思っています。

(委 員) あまり風呂敷を広げると莫大なお金がかかります。あまりお金をかけず、頭を使って効率よく情報を収集するいい知恵を出さないと、お金はかけても効率が良くないということであれば途中で頓挫するケースが多いので、ぜひ今後考えていただきたいと思います。

(委 員) もう一つ、港湾振興事業で花火はもう二度と無理ですか。

(委 員) 港振興協会を代表させていただき私がお答えさせていただきます。花火を上げるのは上げたいのです。臨海部で上げたいのですが、企業の進出や関西国際空港発着の飛行機ルートの関係で上げられません。阪南２区で以前上げていたところは、今は企業が入っておられるので上げられません。平成31年は、水門付近で低い花火を上げましたが、近隣の方への影響がありました。また、花火よりも警備の方が、お金がかかります。今はコロナ関係で医療の方にと告知せずに上げていますが、あれは民間ではできても市がやるとなると絶対にできないそうです。

(委 員) 予算は大丈夫なのですか。

(委 員) 予算も大丈夫ではないです。予算はなかなか取れないと思いますし、予算だけではできません。やるにしてもファンドでお金を集め、皆さんの意思表示をすることでないとできません。今までのような花火大会は、今後できないと思います。やろうとしてもお金がたくさんかかるのでできないのです。今後、2026年に全国海づくり大会を大阪で開催することをめざしております。それを岸和田でやってほしいと、大阪府内で岸和田の港が水揚げ一位なので岸和田市で開催してほしいのですが、泉佐野市が開催に向けて動きを見せています。市長に頑張ってもらいたいと思います。私は20年前に青年部長をやっていた時に海づくり大会をやってほしいと頼まれたのですが20年越しです。国からの予算が色々な形でつきます。市の予算も必要となりますが、上手に使って岸和田のPRにつなげていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(委員長) いろいろなご意見をいただきましたが、記載されている評価とコメントについてはこのままでよろしいですか。ありがとうございます。それでは続いて基本方針9から12までお願いします。

(事務局) ≪基本方針9～12の説明≫

(委 員) 9－2で新たな農業を営もうとする者が、ということですが、若い青年が農業を選んでもらいたいと思うし、同じするなら自然農法を使ってと極めている方が具体的にはおられます。たまたま貸してくれる土地を見つけたからとか、知り合いに紹介してもらったという土地です。新たに農業を始めるにあたってやはり土地の幹旋、耕作を放棄されておられるところもあります。そうい

うところが農業をして地元の小中学校に学校給食という形で届けるという循環的な形でされているところもあります。新たな農業を営む前に、これ以上作れないというような声を聞いて、土地の斡旋をもう一步踏み込んだ形で支援をしてもらえたら助かると思っております。この方向に間違いはありませんが、もう一步踏み込んで斡旋まで市がしてくれたら借り手も作り手も安心だと思うのでぜひ検討してほしいです。

(事務局) 農地の斡旋については市では行っておりません。大阪府みどり公社が農地の斡旋を行っており、2重で行政が行うのは非効率なので公社にお任せをしております。

(委員) 実績はあるのですか。

(事務局) みどり公社の実績はあります。農地の貸し手が登録していただき、借りたい人とマッチングしてもらって貸していただいております、実績としてはかなりあります。

(委員) 府の事業なのですか。

(事務局) 一般社団法人の事業です。

(事務局) 少し補足をさせていただきます。みどり公社を通じた農地の斡旋を府と連携しながらやっておりますし、一方で岸和田市の農業委員会では農地パトロールも行い、遊休農地や耕作放棄地が増えないように農業者の方との対話を進めており、みどり公社を紹介することもあります。全国的な問題として遊休農地が増えてきてはいますが、なんとか農業が持続するように引き続き頑張っていきたいと思います。

(委員長) ありがとうございます。ほかにありますか。

(委員) 基本方針9の人材育成の件です。産業人材の育成はこれから非常に重要になってくると思いますが、コメントの中で参加を促進するために広報活動を充実させるとありますが、広報活動が足りないためなのかセミナーの中身がニーズに合っていないのか、ニーズのあるセミナーを開きたいが講師がいないのかなど、そのあたりについてもう少しわからないでしょうか。

(事務局) 人材スキルアップ事業については、近畿ポリテク（近畿職業能力開発大学校）

などで行うセミナーを対象とし、そこに参加する講習費等を一部補助することになっております。セミナーの中身については各運営が工夫して開催されています。ただ、企業側にこういった制度があることを知らないところも多いので、そういった意味での周知活動と書いております。

(委員) 補助がメインですね。今のニーズに合った人材育成や現場に寄り添った人材育成が必要であると考えます。民間に委託するのが流行っていますが、市役所としてこういう事業をどの程度力を入れていくのかお聞かせいただけますか。

(委員) よりきめ細やかな企業の実務に役立つ人材の育成について委員からご発言がありました。今企業が必要とされるスキルについては、雇用保険の財源で助成金があり、新入社員にこういうものを受けさせませんか、階層別研修をしませんか、というものがあります。大阪府内では制度案内のファックスが企業に流れています。同様の助成を市が実施すると二重補助になるなどの面でどうなのかというもあり、一定の棲み分けは必要かと思っております。

(事務局) ありがとうございます。市が主催となってセミナーという形での開催は考えておりません。民間で様々なメニューが出てきている中ですので、むしろ補助の対象となる範囲を、かつては製造業に特化していたところからビジネスマナーの部分を含めるなどに広げてきたところです。委員のご意見は参考にさせていただきます。

(委員長) ほかにご意見がございましたらどうぞ。

(委員) 私も入っている会議で11-2のマッチングの推進についてのワーキングコメントですが、大阪産業技術研究所のマッチングについて検討するとあります。ここで言っているのがどちらかというと企業情報収集やマッチングになりますが、技術研とのマッチングとなると技術相談とのマッチングという意味なのか、企業同士をつなぐ媒体として技術研がつなぐのか、後者はないと思いながら書き方が微妙なところがあります。技術研自体はマッチングをあまり推進していません。技術研に頼んでも企業同士のマッチングはやっていただけなくて技術相談はOKであったかと思います。そこだけ誤解を招いてもいけないので、どうであったか確認です。

(事務局) 書き方が誤解を招くかもしれません。技術相談について技術研にも紹介できるようなマッチングという意味ですので、そのような表現に変更します。

(委員長) それではそのように変更をお願いします。ほかにございますか。

(委員) 12-1の産学官交流プラザ岸和田の実績はあるのでしょうか。

(事務局) 実績としては4者でセミナーを開いたことがございます。ただ、そのセミナーも人が集まらない事情があり、セミナー自体は平成27年度に開催後、ここ最近の実績はない状態です。産学官連携についてはこれから再度連携を検討していかなければならないと思っております。

(委員) こういうことはあまり市民には周知されていないと思いますが、宣伝などはされているのでしょうか。

(事務局) セミナーを行う際は広報きしわだやHPで掲載をするのですが、ものづくり関係の特定分野に限られた内容でもあり、対象企業がなかったり、中小企業であるとセミナーに行く時間が持てなかったりなど、岸和田市周辺の方が少なくて遠いところから参加されている状況です。

(委員) これは市外でも参加可能なのですか。

(事務局) 市外の方や市外企業でも参加可能ということで広く募集しておりました。

(委員長) それでは、今ご意見をいただいた中で修正をいただいて、9から12の基本方針についてワーキング評価を受け入れるということによろしいでしょうか。それでは基本方針の議論をしていただきましたが、ご意見を踏まえたうえで事務局の方で改めて個票を作成していただく手順で進めていただきます。

(2) 岸和田市産業振興ビジョンの評価について

(事務局) ≪資料4について説明≫

(委員長) 説明にありましたように産業振興ビジョンは平成13年に制定され、20年前ですのでその当時の問題意識が言葉も含めて今とは多少のずれ、違和感があることもあり、それについて評価をいただいたと説明がありました。質問がございましたらお願いいたします。あるいは事務局から補足などがございますか。ないようですので、これについてはご覧いただき確認いただいたということによろしいですか。また何かございましたら個別に事務局の方へお願いいたします。次に参ります。

(3) 事業者アンケートの結果について

(事務局) ≪資料5について説明≫

(委員長) ありがとうございます。ご意見、感想などでも結構ですが、ございましたらお願いします。

(委員) この結果はどういう風にまとめられるのですか。

(事務局) この後の資料6に関わってくるのですが、私の中で産業のあり方という部分で一番印象に残ったのが、だんじりをしっかり活かした方がいいという意見もあれば、だんじりに頼りすぎないという、元々色々な地域資源のあるまちだと認識しておりますが、そういったところを知ってもらい、人を呼び込み、今あるものはもっと活かしていくべきだという話も意外とあったというのが印象的でした。この後説明していきますが、計画の理念やビジョン、プランに反映していく必要があるかと感じております。

(委員長) ありがとうございます。この後に関係があるということですが、まずこのアンケートについての意見はありませんか。

(委員) アンケート結果を受けてのところで申し上げますと、アンケートの初めの基礎の部分ですが、従業員数0～5人が51%以上、法人が83.7%、経営者の年齢が50歳以上のところが86%という状態だと思います。アンケートを取られて出た結果としてこれが一つの芯だと受け取るべきだと思いますが、これから産業ビジョンを考えていこうとした時に、経営者の年齢で50歳以上が86%のアンケート結果を受けて、この結果がこれだからこうしようと思ってしまうのはあまりにも実態から乖離していると思います。逆に言うと20代、30代、40代の経営者の言うことも聞いて両方のバランスを取らないといけないと思います。その点はどのように考えておられるのかお聞きしたいです。

(事務局) アンケート以外に、ヒアリングということでいくつかの事業者等を回らせていただいたり、シート調査という形で個別にアンケート項目をお送りしてお答えいただいたりするなどしておりますので、そのあたりでバランスを取っていければと思っております。

(委員長) 今ご指摘を受けた通り、これが数字の上では一番大きな数字ですが、現実的にもう少し先を見ておっしゃったような捉え方をした分析が必要になるかと思っています。それを補うためのヒアリングなどもされているということですので

で、それで進めていただければと思います。ほかにございますか。

(委員) 18ページの満足度、重要度の散布図への分析が非常に興味深いものでした。満足度が平均より低くて重要度が低いというところに入っているものは、知財権の支援やグローバル化への対応、企業連携、販路開拓などで、どちらかというところのセクターが分担するかとなった時に府や国がやっているところが入っているような印象です。むしろ右にある、コロナ対策や防災関連、BCP関連などが上に来るなど、施策の棲み分けを考える時に重要なヒントになるかと思います。一番上にある新型コロナウイルス感染症対策支援も幅が広く、資金支援から助成金、雇用で言うと雇用調整助成金などたくさんあるのが分けられずに大きくここに入っている。それで言うと感染症対策支援がいろいろなものを包括してここに入っていますので、次回実施するなら支援施策ごとに分けられたらいいかなと思います。いずれにしてもこれが非常に興味深いです。満足度も重要度も高い中に、事業承継の人材育成や経営融資に関する相談支援が入っているということは、やはり足元の身近なところで相談したことが、満足度・重要度は高いということです。商工会議所の枠組みで上がってきたということは非常にうれしく、我々の支援の体制がうまくいっているのだと感じ、府の方でも施策を考える上で非常に参考になります。

(委員) 19ページを拝見していると端々に最近出てくるSDGsのことです。言葉としては非常に良く、私も各地で創業支援をしていて、SDGsやNPOを活用したソーシャルビジネスだと最初にビジネスモデルとして語られる創業希望者がいらっやいます。これは順番が違うものだとは個人的には思っております。商売が長く続くことがソーシャルビジネスであり、私はソーシャルビジネスをやろうと思います、SDGsを主体としたビジネスをやろうと思いますというのは、そちらから入ると押しつけがましく、なんちゃってSDGs、なんちゃってソーシャルビジネスが往々にして行われています。当然そういう方が起業をされると失敗をされます。入り口としてここら辺を推した施策展開は、結果としてSDGsに合致する展開となると市としていいと思うのですが、スタートアップの時期はどちらかというところと気にしない方がいいかと思います。そのあたりを加味してビジョン展開、施策展開を組んでいけたらと思います。国も最近SDGsのことを言っておりますが、事業再構築補助金や小規模事業者持続化補助金や、府でも経営革新計画やものづくりの匠認定など、実情に即した、自分の強みを事業計画にする、しっかりとロジック展開してビジネスに活かしていく流れがあるので、そちらに目を向けたほうが実のある施策になると思います。

(事務局) 新しいビジョン、プランでSDGsも触れないわけにはいきません。いきなりSDGs

ありきだとは考えておりません。それを含めて考えていければと思っております。

(委員長) 18ページの図で言うと、左上の満足度が低いが重要度が高い。ここがたくさんあれば施策を実行する役所のやる気が出てくるかと思いますが意外と少ないです。ある意味特徴かもしれません。本来は左上がたくさんあれば役所としてもやりがいがあるかと思います。これは感想です。ほかに意見がなければ、次に参ります。

(4) 新ビジョン・新プラン骨子案について

(事務局) ≪資料6について説明≫

(委員長) 時間があまりなく申し訳ないのですが、ご意見がありましたらどうぞ。

(委員) 産業振興プランの二つ目の事業者経営支援にある、「ビジネス支援機関はさらに力をつける必要がある」という文言で、ビジネス支援機関とは何が該当するのかということ、それと力をつけるということは、ビジネス支援機関自身は企業支援のノウハウなどの力をつけるという意味なのかについて教えていただきたいです。

(事務局) 岸和田ビジネスサポートセンターを念頭において作成しています。

(委員) 必要ないと思います。ビジネスとは経営者が自分たちで育てるもので、支援機関が育てるものではありません。考え方が間違っているのではないですか。

(事務局) ありがとうございます。おっしゃる通りです。事業者の方が自分で育て強みを見つけて伸ばしていただくのが大切なことです。我々はそれを支援するということで、今のところでは岸和田ビジネスサポートセンターKishi - Bizを作って支援をさせていただいております。それを今後も同じようなやり方で続けていくかどうかは我々も考えていかなければなりません。岸和田の産業の振興状況に応じて、あるいは世の中の動きに合わせてあり方も見直していかなければなりません。

(委員) Kishi-Biz開設以来2年の間に実績はあったのですか。

(事務局) Kishi - Bizについては別途詳しく報告をさせていただかないといけません。一定の成果は上げつつあると認識しています。

(委 員) コストパフォーマンスはどうか。

(事務局) 全てを数字で出すことはできませんが、費用対効果という面では可能な限り出していくように努めます。

(委 員) 詳しく出してください。

(事務局) 今後数字については出せる範囲で公開していきますし、今もすでに事業者アンケート、あるいは利用実績などの数字の公表はしております。引き続きご覧いただきながらご判断いただければと思います。Kishi - Bizをどうこうという具体的なことではないですが、今回はビジョンとプランのご検討ですので、本市としては引き続き事業者支援を続けていきたいと思えます。先ほど他の委員からもございましたように、事業者もSDGsなど、流行りに流されることなく、そもそも事業者が持つておられる力をより伸ばしていくお手伝い、支援をすることが大事だと思っております。

(委 員) 行政が一番事業者に対してできることは、様々な障害を取り除くことです。先ほど南さんが言われた、50代以上の経営者の話が出ましたが、逆に岸和田は50代以上の経営者しかいない、それが現実です。それをどうするかです。事業を起こそうとする気がある人が出てこないことに問題があるのではないですか。

(事務局) 先ほど他の委員からの的確なご指摘をいただいていたところですが、事前のアンケート調査でも1～5人以下の事業者が5割程度、高齢者の方の企業経営の方の回答が高いご指摘もいただきました。今おっしゃる通り、岸和田市の産業の実態がそのまま出ていると理解しております。それがアンケートでも分かっていますので一つの課題だと思っております。特に経営者の若い年齢層と、新規産業を伸ばしていくのが課題だと思いますので、今回のビジョン、プランの中でも基本目標の4点目の先端産業の振興や創業支援、企業誘致、特にここに力を入れていきたいというところです。今後主な施策を次回以降に具体的に整理してお示ししていきますが、我々としては特にこの4つ目のところが、先ほどの事業者経営支援とならんで特に重要なところだと考えております。

(事務局) 私からも補足をさせていただきます。まさに企業の障害を取り除いたり、

基盤整備をしたりすることが行政としては重要だと考えております。そういった意味で個々の企業が力をつけてもらうためのデジタル化や産業機関の整備、デジタル化を通じてコストの削減を図ってもらうことや生産性の向上、個々の企業の実情に応じたデジタル化を膨らませていけるような施策の検討を進めていきたいと思っております。また、アンケート調査にもありました貯木場の利活用を、70haを超えた、いい貯木場が広がっていますので、何とか大阪府と連携してうまく活用していくことをビジョンとして目標として掲げていきたいと思います。今回はまだたたき台ですので、皆様のご意見をいただきながら、新ビジョン・プランに繋げていきたいと考えております。

(委員) ビジョンは10年後ということは、2030年代ですね。できるだけ10年後岸和田の姿がどういうものになっているのかをもう少し分かりやすくしていただけないでしょうか。現状がこれで、何を絞り、何に資源を使うかはキーワードで出てくると思うのですが、それが2030年はこういう姿にする、これだけのギャップがあり今のままではこうなる、それをこうしたいということをはっきり見せてほしいです。指標や、大阪府全体と比較するのもよいです。全部上げるのは大変ですが、10年後の姿を描いて特にここに力を入れていく、というのを描いてほしいです。ビジョンを描く時に、得てして総合的にやりがちですが、戦略的にやらないと、全てを網羅していこうとするのはおそらく今の人員ではできません。論点を整理して皆さんに分かりやすいようにビジョンを作っていただきたいです。今の状態を10年後にこうするので、これに力を入れますという、ぜひこの論点について議論したい、というようなことをできれば次回にお願いしたいです。難しいですが、お願いいたします。

(委員長) 今のご指摘は大変重要だと思います。データで現状を分析して、こういうものをせっかく作るのですから、岸和田ならではの、特徴を最大限に活かしたプラン、将来の制度を含めて作っていただくのが分かりやすいです。本日は案ということで、基本方針を4つ並べていただいています。岸和田という言葉が出ておりますが、これは他のまちでも考えなければならないところです。これに岸和田の特徴を加味して考えて作っていただきたいと思います。ほかにご意見がないでしょうか。よろしければ、ひとまずこれでご意見をいただいたということでお願いします。

(5) その他

(事務局) 本日お手元に、岸和田市中小企業等月次支援応援金のチラシを置かせてい

ただいております。これは国の経済産業省から事業者支援されるもので、主に飲食店以外で昨年、一昨年に比べて売上が半減した事業者へ支給されているものですが、それを受けていらっしゃる事業者に対して、岸和田市からも応援金として支給させていただく制度で、10月5日から始まっております。1月31日までの申請期間ですので、まだ利用されていない事業者がいらっしゃればご周知いただければと思います。

(委員長) ありがとうございます。ほかになれば、次回の委員会について事務局よりお願いします。

(事務局) 長時間にわたりご審議をいただきありがとうございました。本日いただきましたご意見、特に最後のビジョンとプランの部分につきましてはある意味根本的な大きな宿題もいただいております。現状と課題を比較しながら今後どういう姿にしたいのか、できるだけ分かりやすくするようというご意見をいただいております。今日のご意見をいただいたうえで素案を作る作業を進めさせていただきます。次回、11月下旬に次の委員会を予定しております。その時には素案をお示しし、審議いただけるようにいたしますのでご検討をお願いします。次回に素案をご提示したあとは、案を正式に決定しましたら、市民の皆さんからご意見をいただくパブリックコメントに実施する手続きを進めさせていただきますのでよろしくお願いします。今日は限られた時間でしたので、ほかにお気づきの点がありましたら事務局までお知らせください。

(委員長) ありがとうございます。おっしゃった通りで岸和田の将来の大事な話です。積極的にご意見を事務局までいただければと思います。

3 閉会

(委員長) 最後は時間が少なく申し訳ありませんでした。以上で本日の日程は終了いたしました。議事の進行にご協力をいただきありがとうございました。以上で岸和田市産業活性化推進委員会を終了いたします。

以上